

第147回 令和7年12月18日（木）

「AIによる高齢化社会対策について。」

普段あまり音楽は聴かないのですが、小さいころからユーミンの曲が好きで時折無性に聴きたくなることがあります。特に初期の荒井由実のころが大好きで、メロディーも素晴らしいのですが作詞が天才的だと思います。

みなさんも松田聖子さんの「赤いスイートピー」くらいは知っているかもしれませんが、あれを作詞した呉田軽穂さんはユーミンのことだというのは有名な話です。

松任谷由実さんももう70代。相変わらず若々しいですが、それでも身体の衰えはあられると思います。そのユーミンがAIとコラボして若いときの声でアルバムを発売しました。

何かと先進的なチャレンジをして話題を提供する方ですが、AIに仕事を奪われるということで知的財産を使ってビジネスをしている人は非常に警戒している中で、彼女はAIを利用する方向に舵を切りました。

技術の進歩というのは止められませんから、そこに乗っかろうという姿勢は正しいと思います。昔、レコードやビデオが販売されたとき、実際に歌う歌手の仕事が減ってしまうという危惧を訴える人はそんなにいなかったと思います。新しい技術はどのように活用するかが大事な視点です。

高齢者がAIとコラボすることで若者に近い労働力を発揮できれば Win-Win の構図が成立します。少子化社会における生産性の低下、高齢者の活躍による社会保障費の抑制、日本の生産性の維持などすべてにプラスになると思います。

ゆっくり余生を過ごしたい人はそのように、いくつになっても働きたいと思う人は運動機能や認知機能にAIのサポートを受けながら無理のない働き方をすることはQOLの向上にも良いのではないのでしょうか。

人間は高齢になっても承認欲求があり、少しでも社会の役に立っているという自覚が欲しいものです。誰からも必要とされなくなったという感覚は健康にも悪影響を与えます。AIを使うことでコミュニケーションの幅が広がるなら積極的に活用すべきではないかと思います。